

はんよう **オオムギ斑葉病**の発生が**増えています** **種子消毒を徹底しましょう！**

近年、二条大麦で「オオムギ斑葉病」の発生が増加しています。本年5月に県内で実施した調査では、発生ほ場率が77.8%と、昨年から大きく増加しました（図1、2）。本病が発生すると、減収や品質低下が懸念されます。さらに、ほ場からほ場への感染の可能性があることや、種子伝染性病害であることから、大麦の採種ほ場がある地域では特に注意が必要です。健全な麦の生産に向けて、種子消毒を必ず実施しましょう。

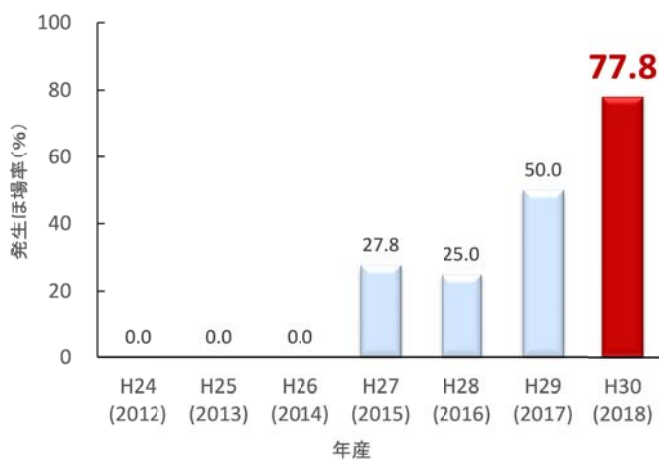


図1 県内におけるオオムギ斑葉病の推移
 ※5月上旬調査、二条大麦（調査ほ場数：16～18）



図2 県内におけるオオムギ斑葉病の発生状況
 ※平成30(2018)年5月上旬調査、二条大麦（調査ほ場数：18）

1 オオムギ斑葉病の特徴



写真1 オオムギ斑葉病（全身感染）



写真2 オオムギ斑葉病による穂枯れ

- 病原菌は糸状菌（子のう菌類）で、種子や被害茎葉上で菌糸、子のう胞子および分生子の形で生存し、播種した種子が発芽すると、その子葉鞘から植物体内に侵入し、大麦が15cm程度に生育してから発病する。特に二条大麦に罹病性の品種が多い。
- 病斑は葉、葉鞘に発生する。葉では初め淡黄色～黄白色の条斑を形成し、のちしだいに褐色となり、最終的には黒褐色の条斑となり枯死する。
- 種子の発芽期間中の温度が比較的低い時に、発病率が高くなる報告がある。

〈参考〉オオムギ斑葉病に似た病気
「オオムギ黒節病」

～見分け方のポイント～

オオムギ斑葉病は全身感染で、1株全体の葉に条斑が現れる（写真1）。一方、オオムギ黒節病（写真3）も葉に褐色の条斑が現れるが、症状は部分的であり、節にのみ病徴が現れることもある。



写真3 オオムギ黒節病

2 オオムギ斑葉病の防除対策

- (1) 感染後の治療薬剤はないため、播種前の**種子消毒**を行う。
- (2) 遅播きすると発生が増加するため、適期に播種を行う。

オオムギ斑葉病に対する種子消毒の効果は、処理方法により異なり、一般的に

しんせきしより
浸漬処理 > 湿粉衣処理 > 乾粉衣処理 の順で効果が高い。

表1 オオムギ斑葉病に登録のある主な種子消毒剤一覧（平成30(2018)年8月末日現在）

農薬名 〈作物名〉	使用方法	希釈倍数 ・ 使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	成分	成分の 総使用 回数	FRAC コード*4
ベンレートT水和剤20 〈麦類〉	10～20分間種子浸漬	20倍	は種前	1回	チウラム	1回	M03
	6～24時間種子浸漬	200倍			ベノミル	1回	1
	種子吹き付け処理(種子消毒機使用)	7.5倍(乾燥種粉1kg当り希釈液30mL)					
	種子粉衣	乾燥種子重量の0.5%					
ベフラン液剤25(劇) 〈麦類(小麦を除く)〉	10～30分間種子浸漬	250～500倍	は種前	1回	イミノクタジン(酢酸塩)	*1	M07
	種子吹き付け処理又は塗沫処理	原液、乾燥種子1kg当り3～5mL					
ホーマイ水和剤 〈麦類(小麦を除く)〉	6～24時間種子浸漬	200倍	は種前	1回	チウラム	1回	M03
	種子粉衣	種子重量の0.5～1.0%			チオファネートメチル	*2	1
キヒゲンR-2フロアブル 〈大麦〉	塗沫処理	乾燥種子1kg当り原液20mL	は種前	1回	チウラム	1回	M03
ベンレートTコート 〈麦類〉	種子粉衣	乾燥種子重量の0.5%	は種前	1回	チウラム	1回	M03
					ベノミル	1回	1
トリフミン水和剤 〈麦類〉	種子粉衣	種子重量の0.5%	は種前	1回	トリフルミゾール	*3	3

- *1 3回以内(種子への処理は1回以内、散布は2回以内)
- *2 3回以内(種子への処理は1回以内、出穂期以降は1回以内)
- *3 3回以内(種子粉衣は1回以内)
- *4 FRACコードが同一のものは、作用点が同じなので連用を避ける。

詳細は、農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。